

令和4年度 第2回地域戦略セミナー

議事録

■開催日	令和 4年 6月20日（月） 13時30分～15時30分		
■開催場所	女神の森セントラルガーデン 陽樹	■出席者	36 名（別紙出席票を参照）
■概要報告			
◇ 開会			
◇ あいさつ			
<ul style="list-style-type: none"> ・小林理事長より 開会の挨拶があった。 ・清水アドバイザー（東京都立大学 都市環境学部観光科学科 教授）より 冒頭の挨拶があった。 ・新メンバーのご紹介 長野県諏訪地域振興局 小林氏、ランドブレイン（株）齋藤氏、茅ヶ岳歴史文化研究所 佐野氏、（株）ハヶ岳ロングライディング 岡田氏 			
◇第1部 地域戦略セミナー			
<p style="text-align: center;">「コロナ前のインバウンドを改めて振り返る ～ウィズコロナのインバウンド再興を目指して」 （清水アドバイザー） 配布資料に基づいて、説明があった。（詳細は資料参照）</p>			
◇第2部 戦略会議			
報告および質疑応答			
1) 令和4年度新規事業について （詳細は配布資料をご確認下さい）			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の稼げる看板商品の創出事業 各事業者の紹介・挨拶があった。（事業者は事業役割分担表の事業担当者欄に掲載） ・日本版持続可能な観光ガイドラインモデル事業 （申請中） ・Living History（生きた歴史体感プログラム）促進事業 「梅之木縄文ムラ Living Prehistory 体感プログラム事業」 茅ヶ岳歴史文化研究所 佐野氏より採択の報告と事業概要、今後の予定等について説明があった。 ・住民満足度調査 事務局より6/17第1回WSの報告と今後のスケジュールについて説明があった。 次回は7月に2回目のWSを開催予定。 			
2) 山梨県の観光動向について			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度 宿泊者数について （やまなし観光推進機構 山口専務理事） 資料を元に令和3年度および令和4年度5月の山梨県宿泊者数について情報共有があった。 ・キャンペーンのご案内 （山梨県 観光振興課 斉藤氏） 7/1～9/30 特別なコンテンツを紹介するキャンペーンを行う。 新しいエッジの立ったコンテンツ情報をWEBで流していく。 			
※ JR東日本 八王子支社 奥富氏が初参加の為、ご挨拶頂いた。			
山梨で臨時列車を走らせたりPR動画の発信など行っている。			
甲府で降りずに小淵沢まで乗っていただけるといいようにしたい。			
3) 観光地域づくりMGミーティング報告 （雨宮MG）			
月1回ミーティングを行っている。毎回、本音の議論を交わしている。ハヶ岳観光圏では、部会の 下に各事業がある。今年度の各部会担当マネージャーを決めていく。また、今日の			

◇グループディスカッション

参加者を5つの班に分け、各班で観光地域づくりマネージャーらがファシリテーターとなり以下のテーマについて話し合い、各班ごとに代表者が発表した。

①八ヶ岳観光圏に対する皆さんのイメージ

1班：観光圏が具体的に何をやっているか、うまく説明できない、よくわからない。

2班：外部的な視点⇒この地域のファンも多い。マネジメントは地元の先端として観光圏の方でも走ってきたというイメージ。内部的な視点⇒入るときもマネージャーの方がきっかけで入り、民間の方が動いていて、入ってからは県をまたぐ取組の難しさを知り、昔からいる方と新しく入ってきた方の融合の難しさを知る。民間の方々が動いている観光圏というのが特徴。

国でもDMOの形は理論的には色々するが、実際に動いているのがここの強みではないか。

3班：統一的なイメージがない。逆にそれが良いのではないかという意見もある。エリアがどこからどこまでか思い描けない。

4班：参加者からは距離が遠い。空中戦で合意はしているが、本当に自分たちの腑に落ちているかは、少し距離間がある。民間の力がものすごく浸透している。

5班：5班は最近2年ぐらいのメンバーが多い。地元には浸透していないが外部から見るとものすごくやっていると感じる。

② 八ヶ岳観光圏に対して望むこと

1班：わからないからあらゆることを望んでしまう。もう少し、何をやっているかももう少しわかり易くしてもらおうとそれに対して望むことも言えるかと思う。

2班：いかに継続していくか。どう今後に繋げていくか。いかに人を継承していくか。民間主導だが、行政の方でもスペシャリストで動いている方がでてきたので、今後タッグを組んでいくことか必要。

3班：富士見・原村含め、住みやすい。知らないところが多いのでコンセプトがあつたらよい。

「キャッチコピーがあればよい」という話があつたが、実はある。「1,000mの天空リゾート八ヶ岳〜」拠点かわからないぐらい広く、ある意味拠点性がない。

4班：それぞれの立場で参加できそうなことはあると思うが、それを言える場が無いのではないか。会議の持ち方が重要ではないか。

観光客にとって「八ヶ岳」は1つのエリアだが、「八ヶ岳観光圏」となった瞬間に「？」となる。統一的なプロモーションやブランディングをうまくできたらよい。

(やまなし観光推進機構さんより) 民間の方々が手弁当で集まってやっている貴重なところなので、崩さずに頑張ってやって頂きたいという意見を頂いた。

5班：地元の人にしてもらおう。八ヶ岳のブランドイメージは今一。もっと観光圏でアピールできるとよい。二次交通もJRで来た人が楽しめるようにできると良い。良いコンテンツがたくさんあるので、予約ができるようなポータルサイトを立ち上げられると良い。

(小林理事長)

ディスカッションしたことをコミュニティに持ち帰って、ここでの話したことを広がりを持って頂きたい。

残念だったのは、「1000mの天空リゾート八ヶ岳〜」は10年間我々が言い続けてきた。

ブランドコンセプトが無いとプログラムが作れない。

今日来て頂いた方も一緒になって、地域の方に教えて頂きしっかり浸透していく事が重要。

◇清水アドバイザーより総括

タイトルから八ヶ岳観光圏の組織の話かコンセプトの話か今一つ分かりづらかった、がコンセプトについて話した。観光圏のブランドイメージ1000mは±500mと相対差の1000mとどちらもとれる。どちらかというと相対差が目立たないが拠点性(中心)がぼける。小さい拠点はあがるが、結びつけるのが難しい。

北杜市側では低いエリアが白州エリア、中間が小淵沢、清里が一番高いエリアであると思う。北杜市・富士見町・原村のそれぞれの標高レベルの拠点をどう位置付けてどう結びつけていくかがこの地域が本質的にかんがえなくてはならない課題なのかと思った。

班によって、組織の話とコンセプトの話に分かれた。両方が擦りあう議論が必要かと思う。

物理的に考えると八ヶ岳観光圏だと八ヶ岳とアルプスを繋げられる。カバーしている地域を違う形で訴えかけていく必要があるのかもしれない。

八ヶ岳観光圏は、トップダウンでやってきた10年だったと思う。最初は効率がよいし、外からの評価も高くなる。

今話を聞いているとボトムアップの力をやりたいが、今の構造だと発揮しにくいという意見が出ていた。トップダウンの主導する力を活かしながら、下から持ち上げる力を今後の観光圏の組織としての活動に付加すると、筋肉質な強い組織ができるかと思う。地元への浸透が次の課題。

◇その他

(事務局)

- ・ JSTS-Dや環境に関するセミナーの案内

6/28 10:00～ 第1回JSTS-Dセミナー (講師: 地域観光研究所 岡田氏)

7/8 10:00～ 第2回 JSTS-Dセミナー (講師: ゼロエミやまなし 窪田氏)

- ・ アンケートご協力をお願い

セミナーの理解度・今後のグループディスカッションのテーマ (案)

その他ご意見について配布シートにご記入頂くよう事務局より依頼

(小林理事長)

今日、観光圏の課題が色々出たが、みなさんをお願いしたいのは、是非外部ではなく観光圏は自分たちのものという考えで取り組んで頂きたい。観光圏は住民のものであり、みなさんがその代表として来られている。みなさんと運営していくという考えで、意見を頂ければ、と思う。積極的に自分たちの組織という意識で関与していただきたい。

◇閉会

■特記事項 (写真・模様等)

